

1. 評価結果概要表

作成日 2008年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1272100221
法人名	社会福祉法人旭悠会
事業所名	グループホームメタセ
所在地	〒275-0005 千葉県習志野市新栄1-10-2 (電話) 047-476-5122

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年1月24日	評価確定日	4月16日

【情報提供票より】(20年1月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート(耐火構造)造り 1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分
------	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他	生活費45,000, 理美容1,200, 行政手続き代行500, オムツ実費, 買い物代行800, 預かり金管理300, 受診付添, 送迎費など	
敷金	無		有りの場合	退居時の居室の原状回復費用として積立て、差額は返却
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (200,000円)	償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(1月9日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 有明会 最成病院
---------	-----------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成13年に開設された、市内初のホームである。JR津田沼駅からバスで10分程の日本大学実籾校前にあり、マンションに隣接している。近くには公園もあり、実籾駅までの道は、入居者にとって買い物や散歩のコースとなっている。1ユニット6名なため、家庭的で互いを支え合う関係が保たれている。介護者同士の意思疎通が良く、入居者の表情は生き生きとして笑顔と会話が絶えない。地域への働きかけとして今秋から地域住民向けの講座を開く予定とのことで、今後、地域の一員としての役割発揮が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された理念の明文化は、今後も引き続き取り組みが期待される。食事や水分の摂取量については、注意の必要な入居者はチェック表に記録し、職員間で共有している。リビングは入居者の動線に配慮しながら観葉植物、花鉢などを配置し、折り紙作品も展示され、家庭的な雰囲気に改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価票を配布し、それを集約してホーム代表者が記載している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者、家族、介護相談員、地域包括支援センター保健師が出席し、2ヶ月に1回開催し、ホームの行事報告、評価への取り組み状況などが話し合われている。自治会、民生委員、行政からの参加が今のところない。地域の一員としての役割を果たすためにも、幅広い立場の人の参加が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見要望は、日々のケアやミーティングでその都度対応している。法人の行事参加の際、家族同士が話し合う場面もある。法人の管理者自ら手作りの意見箱も設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設前の歩道のゴミ拾い、盆踊りへの参加、地域のコミュニティセンター祭りに折り紙を展示するなど、近隣との交流に努めている。法人のイベントでは、ポスターを貼り近隣に呼びかけ、大勢の地域住民が参加した。今後は自治会、学校との交流や、ボランティアの受け入れなど、地域に根ざした取り組みが一層期待される。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての基本理念はパンフレットに掲載され、運営方針の中に具体的に盛り込まれている。しかし、ホーム独自の理念が作成されていない。		運営方針とは別に、ホーム独自の、分かりやすい簡潔な理念を作り、来訪者にも目立つようにホーム内に掲示することが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員の関係は良好で、常に話し合いをしながら、日々のケアに取り組んでいる。しかし、理念の共有が十分とはいえない。		理念への認識が、職員間で統一されていないため、会議や勉強会などの場で理念の意義を再認識し、共有することが必要と思われる。
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	歩道のゴミ拾いや盆踊りに参加したり、コミュニティセンターのイベントに入居者の折り紙作品を展示している。法人の行事の際はポスターで呼びかけて多くの参加があった。しかし、近隣住民との交流がやや希薄である。		今秋から地域向けの講座を開催するとのことである。今後、自治会や学校との交流、ボランティアの受け入れなど日常的な取組を通して信頼関係を築き、地域に根ざしたホームに成長していくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は全職員が記入し、ホーム長が集約している。前回評価での改善点をシートに記入し、全職員で話し合い、実践し、改善がみられている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、入居者、家族、相談員及び地域包括支援センター保健師が出席し、開催している。内容は、行事報告や意見、要望の抽出などが主となっている。		運営推進会議には、地域代表や民生委員らにも参加を呼びかけ、自己評価を説明し、外部評価の結果を公表するなどし、サービスの質向上につなげていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護サービス向上連絡会に参加し、積極的に意見を述べている。地域包括支援センターの保健師からも情報提供がある。		役所に出向いた時に窓口で相談したり、情報収集に努めるとともに、運営推進会議への出席を促すなどの取組が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、入居者の様子や健康状態を手紙で知らせている。写真や金銭出納書、年4回発行するホーム便りも同封している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に意見、要望を聞いており、訪問のない家族には便り、電話で対応している。事務所に管理者手作りの意見箱も設置している。行事の際に家族同士の話し合いもなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の各事業所へ職員の異動があるが、気心の知れた常勤者が、入居者のダメージを最小限に留めるよう支援している。家族にも理解してもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間計画で月2回以上の研修がある。各事業所の輪番制で、当番の時はテーマを皆で話し合って発表している。看護師による感染症予防、対策の研修もあり、法人外の研修も積極的に支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス向上連絡会には積極的に参加しているが、同業者との交流が課題となっている。		同業者との交流は、ホームを見直す気づき、発見を得る良い機会であり、グループホーム全体の質向上にも結びつくため、今後の取組が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入所するのではなく、日帰りでお茶に誘ったり、見学してもらうなど、十分納得した上で入所になるよう努めている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、年長者である入居者から、行儀作法、言葉使い、調理など教わることが多く、和気あいあいとした馴染みの関係が築かれ、いつも明るく笑いが絶えない。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	午前、午後のお茶の時間、食事時の会話の中から、入居者の希望、要望を引き出すよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で月1回、カンファレンス、モニタリングを行い、家族からの意見も聞き、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月に1度、介護計画の見直しを行っている。状態変化が生じた場合は家族に報告し、意見を聞いて現状に即した介護計画を作成している。変更後の介護計画は全職員に周知徹底している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護職員の不足により、夜勤対応が困難なため、宿直で対応している。事業所の多機能性を活かした支援が十分になされているとはいえない。	○	新事業所が近く落成し、職員の人数を増やす予定もある。入居者、家族、地域住民の要望に応えられるような新体制を構築し、多機能性を活かした支援への取組が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が付き添う場合もあるが、定期的な通院は、家族の協力を得ている。家族の希望で、ホームから近い病院に変更した入居者が多い。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化したり終末期にある入居者はいないが、今後ターミナルをホームで迎えたいという要望が出れば、母体特養のノウハウなどを活かし、対応していく方針である。		
ta (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声かけなどは、他の入居者に分からないよう、さりげなく行うことを全職員で徹底し実践している。重要な個人情報は母体法人で一括管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は無理強いせず、朝の調理の音で目覚めを待つなど、入居者のペースを尊重した支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、テーブル拭き、配膳など、各入居者の得意分野を活かせるよう共に準備し、そろって食卓を囲み、会話しながら楽しい雰囲気ですべてしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきで、入浴時には職員が付き添い、入居者の出来ない部分を介助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、食器洗い、洗濯物たたみ、花の水やりなど、各入居者が得意分野を活かし、できることはやれるよう支援している。意欲の少ない入居者にも声かけし、手伝いを頼んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日近所の散歩や買い物に出かけている。どの入居者も外出が好きで、ドライブや月2回の外食を楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、テラスは施錠せず、玄関は開けるとチャイムが鳴る仕組みである。時間毎に入居者の在室を確認し、黙って外出してしまう場合の対応は、時間帯を全職員が把握し、目配りしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは整備され、年3回の火災訓練を同敷地内の母体施設と合同で行っている。しかし、近隣との関わりが希薄なため、協力の声かけなどは行われていない。	○	20年2月に隣に居室数9部屋の新ホームが完成する。防災担当職員も配置し、夜間の災害を想定した訓練や、近隣住民への協力依頼も視野に入れているとのことで、今後の取組が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の栄養、水分摂取量は全職員が把握している。注意の必要な場合はチェック表を作り、全職員で共有している。カロリー制限の必要な場合は食事量で調節している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や手作り品が飾られ、温かい雰囲気である。ワンフロアにキッチン、ダイニング、リビングがあり、南に面し、部屋は明るく温かい。気になる臭いや不快な音などは感じられない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具が持ち込まれ、各々配置を工夫し、安心して過ごせる部屋作りをしている。自らの手作り品を飾ったり、個性的な装飾も施されている。		